

# 認知症疾患医療連携研修会 開催報告

日時：令和7年7月11日（木）17:30～19:00

会場：北見赤十字病院 北館3階 大会議室

内容：[認知症の親を持つ子ども世代からのメッセージ](#)

今年度もweb会議システムを活用し、ハイブリット形式の研修会を開催いたしました。オホーツク管内の医療・介護・福祉に従事する関係者38名（会場：26名 web：12名）に参加していただきました。

講師

若年性認知症の親と向き合う子ども世代のつどい  
「nanmo」 副会長 緑川 広明 氏

今回の研修会は若年性認知症の父の在宅介護に約20年間向き合った当事者の緑川氏を講師に招きました。緑川氏は旭川在住で、北海道内の若年性認知症と診断された親を持つ子ども世代のつどい「nanmo」と若年性認知症の人と家族の会「旭川ひまわりの会」で会長として活動しながら、通所介護事業所及び住宅型有料老人ホームで施設長もされています。

講話の内容は、父の症状が出始めてから診断やサービスに繋がるまでの『前期』、父が脳梗塞で人格変化したことで楽しい在宅介護となったが主介護者の母が病気となり特養入所となった『後期』、在宅介護に戻り亡くなるまでの『終末期』の三部構成で当事者目線の貴重なお話を聞かせていただきました。当事者や家族の数だけ介護生活のパターンがあり、こうしなければいけない・こうしたらダメということはないと緑川氏より伝えていただきました。緑川氏の母も旭川市より一緒に来院されており、妻目線と親目線のお話も聞かせていただきました。

終了後のアンケートでは、「後悔しない介護はないと言われ、本当にそうだと思います。どんなに寄り添ったと思っても、もっとこうしてあげれば良かったと限りなく思います。」「介護を楽しみと思える境地に至るまでのご家族の葛藤は多々あると思います。専門職としてその感情を支えていくことが大切だと思いました。」と多くの感想をいただきました。また、専門職としての視点での学び、自身の家族の介護への視点での学びにも繋がる貴重な機会となりました。



次回の認知症疾患医療連携研修会は10月3日（金）に事例検討会を開催予定です。ハイブリット形式ではなく、当院にて集合研修となっております。近日中に各関係機関へ周知をいたしますので、多くの関係者の皆様のご参加をお待ちしております。

（認知症疾患医療センター事務局 垂石記）

